

幡中だより

あやめ

～since 1999～

第 301 号

令和 6 年 6 月 7 日

瀬戸市立幡山中学校



勝利の秘訣!選手を育てる名将の教え

瀬戸市立幡山中学校長 梶田 明敬

先日、元プロ野球選手で、5度の日本シリーズ制覇を果たした監督としても名高い愛知県出身の工藤公康氏の講演を聞く機会がありました。演題は「未来を創る思考と行動」。少し固いタイトルだなと思いつつも、著名人の方の講演ということで、どんなお話なのだろうととても楽しみにしていました。

■勝ちながら、選手を育てる

プロ野球の監督である以上、「勝つ」ことは課せられた使命だと思っています。しかし、それ以上に工藤氏は選手を「育てる」ことをとても重視していました。選手自身が自分の役割や長所を理解し、監督・コーチはそれを見て知って、後押しをする。この関係こそがカギであり、指導者たちはどこにおいても同じ視点、同じ考えで声かけをすることができる。こうした、指導者側の共有・共通認識・意思統一があるからこそ、選手を見る目が指導者ごとに変わらないため、選手の安心感や力量発揮につながっているのです。



■選手一人ひとりを大切に

チームにおいて大切なことは、選手一人ひとりの存在です。選手自身が考え、発見し、それを成長に生かす環境づくりを目指さなくてはなりません。では、何から始めるとよいのでしょうか。

それは、「選手のバックグラウンドを知る」こと。そのために、工藤氏は、日ごろから相手から考えや思いをいかに聞き出すか、引き出すかということを大切に、選手との気持ちのギャップを埋めていたと話されました。

■自走できるチーム作り

試合に負けた時、監督としてどう対応するか。皆さんならどうですか。プレーするのは選手の皆さんです。監督がどれだけ、げきを飛ばしても、選手の心に響かなければ何も変わりません。工藤氏はこうおっしゃっていました。「あたふたしたり、迷ったりしなければ、すべきことが分かる」と。すべてが想定内となるよう、「準備」が大切であり、いろいろな場面をシミュレーションし、その対応策を考えておく。そして、それを分かりやすく選手に伝えることで、選手自らが気づき、自走できるチームとなる。実績に裏付けされたとても印象的な言葉でした。

この講演を聞きながら、相手にいろいろと求める前に、「自分自身が変わろうとする姿勢」、それから「相手のためへのたゆまぬ準備」、この二つがどれだけできているのかが相手を動かす原動力になると感じました。これらは学校でもいえることで、一方的に教師が子ども達に要求しても大きな変化にはつながらず、子ども達への伝え方を試行錯誤して準備し、実践することでようやく小さな変化につながります。工藤氏の選手に対する真摯で細やかな対応は、私の中のプロ野球の監督のイメージを大きく覆しました。工藤氏が最後に示してくださった言葉の中にあるこの一節、「学べ!自分の野球観など知れている!」これを胸に刻み、常に子ども達のために考え学び続ける幡山中学校でありたいと思います。



学校公開日

5月18日(土) 8:45~11:20

1・2・3限 分散授業参観

幡山中学校の教育活動を広く知っていただく機会として、保護者・地域の方を対象に学校公開を行いました。当日は多くの方に足を運んでいただき、ありがとうございました。11月にも同様の公開日を予定しています。よろしくお願いいたします。



3年生 修学旅行

5月27日(月)~29日(水)

行先 関東(東京・山梨)

一日目は東京ディズニーランド研修、二日目は都内班別研修、三日目は富士山麓での体験活動という日程でした。事前の天気予報では荒天の心配もありましたが、その影響も少なく、予定通り無事に三日間の日程を終えることができました。3年生にとって仲間との絆を深め、中学校生活の思い出に残る修学旅行となりました。



1年生・1組 校外学習

5月29日(水)

行先 愛・地球博記念公園

(モリコロパーク)

1年生・1組は校外学習で校区の近くにある愛・地球博記念公園まで出かけました。前日は雨が強く降る日でしたが、当日は気持ちのよい青空となり、中学校で集合した後に、モリコロパークを目指して歩いていきました。

疲れたものの、初めての学年行事で、笑顔あふれるよい一日となりました。

